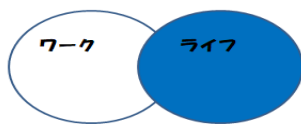


「テーマ 寄宿舎のキャリア教育 ～ライフキャリアを意識した取組～」

〈1年目の取組〉・・・「ライフキャリアに焦点をおいた取組を計画」

寄宿舎では、文献研修(みんなのライフキャリア教育)を通して、ワークキャリアよりもライフキャリアに焦点をおいた取組を行っていくように計画した。またライフキャリアの中でも4領域(人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力)を意識した指導を、寄宿舎の集団活動で行っていくように計画した。



【4領域】



〈2年目の取組〉・・・「ねらいを明確にした集団活動を通して舎生のライフキャリアを伸ばしていく」

寄宿舎で以前から行っていた集団活動(※SST)の指導案にキャリアの観点を組み込んで、活動のねらいを明確にし、舎生一人一人のライフキャリアを充実させるように計画し実践した。

※SST(ソーシャルスキルトレーニングの略)

寄宿舎では、遊びの活動を通して生活の中の対人関係や卒業後の社会生活で大切なスキルを学習している

【キャリアの観点を組み込んだ SST の指導案※補足資料1】

キャリアの観点	指導案の動き	留意点
・前に入らぬこと	・あいつを誘う場所(舎生と一緒に移動する)	・移動が多いので、舎生同士がぶつからないように気を付ける。
・あいつを誘う場所(舎生と一緒に移動する)	・あいつを誘う場所(舎生と一緒に移動する)	・移動が多いので、舎生同士がぶつからないように気を付ける。
・あいつを誘う場所(舎生と一緒に移動する)	・あいつを誘う場所(舎生と一緒に移動する)	・移動が多いので、舎生同士がぶつからないように気を付ける。

実践した成果は、集団活動を通して、舎生はお互いを意識した楽しいインクルーシブな活動ができたこと。課題は、寄宿舎では、学年や発達段階など実態に幅があるため、題材設定が難しかったこと、集団活動では、行えない個別の課題が多いことがあげられた。

この課題について、梶教授からアドバイスをいただいた。アドバイスの内容は2点あり、1点目は「全体では、同じ目標を掲げ、一人ひとりの実態にあったねらいの設定とアプローチを変えてみてはどうか?」2点目は「集団活動で足りない部分は個別に指導すればいいのではないか?」

このアドバイスを受け、キャリアの4領域を用いた実態表と指導案(個別)を作成し、ひとりひとりのねらいを明確にした集団活動を行っていくこととした。

キャリア実態表 ※補足資料2

仲間との関わり	ルール
<ul style="list-style-type: none"> 仲間と話し、仲良くする。 仲良くする(対人)の練習をする。 仲良くする(対人)の練習をする。 仲間と話し、仲良くする。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と話し、仲良くする。 仲間と話し、仲良くする。 仲間と話し、仲良くする。 仲間と話し、仲良くする。
伝える力	協力関係
<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを伝える(声・手紙)。 仲良くする(対人)の練習をする。 仲間と話し、仲良くする。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲良くする(対人)の練習をする。 仲間と話し、仲良くする。 仲間と話し、仲良くする。
人を助ける力	受け入れ
<ul style="list-style-type: none"> 仲良くする(対人)の練習をする。 仲間と話し、仲良くする。 仲間と話し、仲良くする。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と話し、仲良くする。 仲間と話し、仲良くする。 仲間と話し、仲良くする。

指導案(個別) ※補足資料3

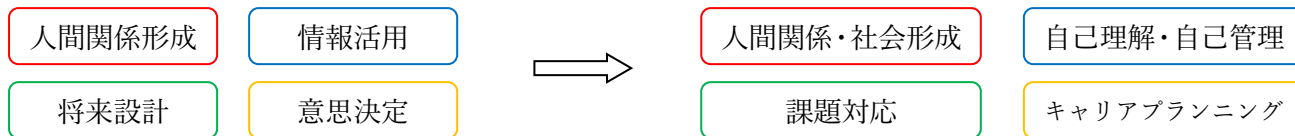
ねらい	活動	留意点	自己の得意さ	舎生の様子
・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。
・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。
・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。	・仲間と話し、仲良くする。

〈3年目の取組〉・・・「個別の活動もキャリアの観点を意識した指導を行う（無意識的な活動を意識的に）」

中間発表を終え、学校と寄宿舎のキャリアの観点（4領域）のとらえ方に違いがあることに気づき、学校との連携を考えると、学校と同じキャリアの観点にするべきと考え、基礎的汎用的能力に移行するように計画した。

【4領域】

【基礎的・汎用的能力】



移行する際に、これまでに用いていた4領域よりも、扱いやすく舎生一人一人のキャリア実態表を作成しやすい様式を考えた。（資料1 寄宿舎の基礎的汎用的能力）

【資料1 寄宿舎の基礎的汎用的能力※補足資料4】

寄宿舎の基礎的汎用的能力（新しい4領域）

基・汎	つけさせたい力	キーワード
人間関係形成能力	<p>○自分なりの方法で、気持ちを伝える力。</p> <p>△相手や仲間を意識し、関わる力。</p> <p>□相手の気持ちを理解し、行動する力。</p> <p>◇集団の中で役割やルールを理解し、協力し合う力。</p>	<p>○自分の思いを伝える、思いを受け入れる・他者の理解、協力。</p> <p>△相手を意識する・仲間意識・コミュニケーション。</p> <p>□相手の気持ちを理解する。</p> <p>◇集団での役割・ルールを守る・折り合い。</p>
自己理解能力	<p>○自分ができていること、できていないこと、したいことを理解する力。</p> <p>△主体的にチャレンジする力。</p> <p>□自分の気持ちや体調を伝えることができる力。</p>	<p>○自己理解・自分を見つめ直す・できることしたいことを理解する。</p> <p>△主体的・チャレンジ。</p> <p>□自己管理・気持ち・体調を伝える。</p>
課題対応能力	<p>○課題に気づき、考える力（<u>なんでだろう</u>）。</p> <p>△課題解決の方法を見つける力（<u>こうやったらどうだろう</u>）。</p> <p>□方法を試す力（<u>やってみよう</u>）。</p> <p>◇試した結果を振り返る力（<u>どうだったかな</u>）。</p>	<p>○<u>なんでかな</u>、<u>なんでこうなるの</u>と考える力・課題発見。</p> <p>△見通し・判断する力。</p> <p>□やってみよう。</p> <p>◇行動調整。</p>
キャリアプランニング能力	<p>○見通しを持って主体的に行動できる力。</p> <p>△生きがいや楽しみにつながるものを見つけ主体的に生活する力。</p> <p>□選択し、行動する力。</p>	<p>○見通しを持つ・計画する。</p> <p>△興味を持つ・見つける。</p> <p>□優先順位・折り合い（<u>嫌なこと、もっと嫌なことの二つから選ぶ</u>）。</p> <p>選択する（<u>好きなこと、嫌いなこと or 好きなこと、もっと好きなことから選ぶ</u>）。</p>

この様式を基に、舎生一人一人のキャリア実態表を作成することで、細やかな実態把握ができた。（資料2 舎生 A 実態表）

【資料2 舎生 A 実態表※補足資料5】

<p>●人間関係形成能力</p> <p>○自分なりの方法で思い（嬉しい・嫌）を伝える力。</p> <p>△相手や仲間を意識し関わる力。</p> <p>□相手の表情や行動から意図を感じる。</p> <p>◇集団活動に参加する力。</p>	<p>●自己理解自己管理能力</p> <p>○できることを伸ばす力。</p> <p>△指導員の支援を受け入れチャレンジする力。</p> <p>□指導員に表情や動作で、気持ちや思い、体調を伝える力。</p>
<p>●キャリアプランニング能力</p> <p>○見通しを持って過ごす力。</p> <p>△興味関心のあるものを見つける力。</p> <p>□（折り合いをつけ、嫌なことにも取り組む力・選択する力）。</p> <p>☆適切な関わり方を身につける。</p>	<p>●課題対応能力</p> <p>○快・不快に気づく力。</p> <p>△（見通し・課題解決の方法を見つける力）。</p> <p>□方法を試す力。</p> <p>☆適切な課題解決の方法を知る。</p>

このキャリア実態表を用いて、一人一人の実態に合ったねらいを設定した、集団活動を計画していたが、今年度はコロナの関係で集団活動を行うことができなかった。そこで、寄宿舎の生活の中の個別活動（日課）にねらいを持ってアプローチするように計画した。

「集団活動を意識的な活動とすれば個別活動は無意識的な活動であり、その無意識的な活動を意識的に指導する」これが3年目の取組のメインである。具体的には、指導案などを作っていない余暇の時間に、キャリア実態表に載っているつけさせたい力を伸ばすことができるように、指導員が意識して関わっていくということである。

また、余暇の時間でのアプローチについて、効果的だった方法や、効果的ではなかった方法、効果があったかどうか判断できず困っていることなどを、指導員間で自由に話し合い、更新していく様式として、「アイデアわくわくシート」を取り入れた。（資料3 アイデアわくわくシート）

【資料3 アイデアわくわくシート※補足資料6】

The diagram illustrates the 'アイデアわくわくシート' (Idea Wakuwaku Sheet) process. It consists of several interconnected boxes and a flow arrow:

- ねらい (人〇: 細やかに表情や動きを観察し、本人の思いを共感する)**: A box at the top right containing the purpose of the observation.
- 観察情報**: A box on the left containing fields for:
 - 〈いつ/どこで〉 下校後・登校時/自室
 - 〈本人の様子〉 ↓
 - 〈アプローチ〉 ↓
- 思考**: A box below the observation information containing the field:
 - 〈思い・悩み・考え〉 ↓
- アイデア**: A large dashed-line box on the right containing the field:
 - 〈アイデア〉 ↓
- 新しいアプローチ**: A box at the bottom right containing the field:
 - 〈新しいアプローチ〉 ↓

A large blue arrow points from the '観察情報' box towards the '新しいアプローチ' box, indicating the flow of information.

アイデアわくわくシートを用いることで、日課のよりよいアプローチを指導員で共有しながら、無意識的な活動を意識的にアプローチすることができた。これが3年目の成果である。

〈まとめ〉 「細やかな実態把握→具体的なねらいを持ったアプローチ→ライフキャリアの充実」

キャリア(ライフキャリアの4領域)を意識して、舎生一人一人の実態を細かく把握することで、集団活動(意識的な活動)や日課の活動(無意識的な活動)に、具体的なねらいを持って関わる事ができた。具体的なねらいをもって、舎生一人一人と関わることで、寄宿舎の生活の中で、舎生一人一人のライフキャリアを充実させることに繋がったと感じている。今後も継続して、キャリアを意識した取組を進めていく。